

長年にわたり、町内外で座敷雛の活動を展開

上本與忠さんが鬼北町功労賞(教育文化部門)を受賞



7月1日、兵頭町長が上本與忠さんの自宅を訪れ、上本さんへ鬼北町功労賞を贈りました。

上本さんは、戦後途絶えていた鬼北町の伝統文化である座敷雛の風習を復活させるため、平成5年に座敷雛研究会(後のきほく座敷雛保存会)を発足。高田商店や森の三角ぼうしで、自然素材にこだわった座敷雛の展示を行ってきました。さらに、平成26年には、鬼北町と友好地協定を結んでいる福島県の土湯温泉町で、座敷雛の作成技術の指導にあたり、土湯温泉町の伝統工芸である「こけし」と「座敷雛」を織り交ぜた「こけし座敷雛」の展示を行いました。長年にわたり、町内外で座敷雛に関する活動を続けてきた功績がたたえられ、この度の受賞となりました。

上本さんは、「賞をいただけると思っていなかったので、感動しています」と話し、表彰を喜んでいました。

医療従事者らに感謝を伝える

◎「アマビエ」の和菓子を贈呈



6月18日、北宇和高校の生徒が、新型コロナウイルスの支援に取り組む行政や医療従事者に感謝を伝えようと、妖怪「アマビエ」の形をした和菓子を鬼北町役場に贈りました。

アマビエは、病が流行したらその写し絵を人々に見せたらよいと伝えられる妖怪。兵頭町長は、「かわいい、食べるのはもったいない」と話し、笑顔で受け取りました。



差別、偏見の解消を目指して

◎鬼北町連合婦人会 シトラスリボン作り



中央公民館で6月10日、鬼北町連合婦人会の会員たちが、町内の小中学校の児童生徒に配布するため、シトラスリボン作りを行いました。

シトラスリボンは、新型コロナウイルス感染者や医療従事者らに対する差別や偏見をなくそうと始まった運動のシンボル。

参加者たちは、結び方を教え合いながら1つ1つ丁寧にリボンを結んでいました。

